

FUKUCHI

Public
Relations

No.216
December

広報ふくち



祈りを込めて

福智町観光ボランティアガイド協会「ふくち案内人」初の自主開催イベント「福智山麓プチ修験」が、先月25日に開催されました。「福智町の魅力をより多くの人に知ってもらいたい」と、福智山修験者で「ふくち案内人」のメンバー・久富達也さんが企画立案し、メインガイドとしてご案内。最終目的地「白糸の滝」で久富さんは、参加者の幸せと福智町の発展の祈りを込めて、高らかにほら貝を鳴らしました。

【特集】^{げん こう}眩光 福智の光を集めて――

2023
12

「虎尾桜を心配する世話人会」の手で再生し、毎年3月下旬頃に満開の花を咲かせる虎尾桜。



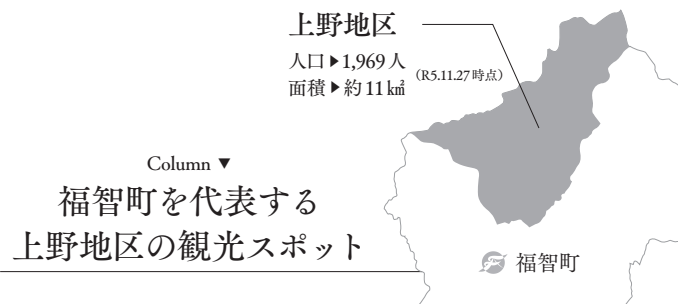
Interview ▼

推定樹齢600年の長寿支える 「虎尾桜を心配する世話人会」

枯 渴寸前の虎尾桜を発見した時、助けを求められている気がした私は、想いを同じくする7人と平成2年に「虎尾桜を心配する世話人会」を結成しました。樹木医を呼び、枝や幹を支え、日光が当たるようにするなど一生懸命に手当てした想いが通じ、虎尾桜は奇跡的な回復を遂げました。今では、毎年春に満開の花を咲かせ、町外から訪れる大勢の観光客の皆さんに感動を与えています。そんな姿を見ると込み上げるものがありますね。虎尾桜は回復後、安定しているとはいえ、まだ人の手が必要な状態です。私たちも頑張りますが、次世代を担う若い人にも、本会に参加・活動してもらえたらうれしいです。



虎尾桜を心配する世話会 **小林 省吾** 会長



1「九州百名山」などに選ばれ、町名の由来になった名峰「福智山」2上野峠を代表する景勝地「白糸の滝」。落差25mの滝の景色は壮観3室町幕府初代将軍・足利尊氏の伝説が残る「興国寺」4「興国寺」所蔵の県指定文化財「木造元庵禅師坐像」5「かもめの水兵さん」などで知られる町出身の童謡作曲家・河村光陽先生を、上野焼を駆使し顕彰した「協奏の庭」

町民の皆さんによる観光のまちづくりが30年以上前からスタート。その中でも「福智みどりの会」と、「虎尾桜を心配する世話人会」は、いち早く活動を始め、今もなお取り組みを続けています。

福智町に息づく魅力を生かし、町を再び盛り上げ、未来へ――

原点となった熱い想いは、さざ波のように町内へ波及。現在では、志を同じくする多数の個人や団体が、各自の信念をもって、観光のまちづくりへの挑戦を続けています。

Interview ▼

上野の原風景を守りたい 「福智みどりの会」

町の観光スポットが多数点在する上野地区の美しい原風景を守るため、想いを同じくする有志13人と「福智みどりの会」を結成しました。20年以上の活動で、仲間も18人に増加。ホテルが多く生息する福智川周辺をはじめ、上野地区内の清掃や草刈り、春には「虎尾桜を心配する世話人会」のお手伝いで虎尾桜の周辺整備などに取り組んでいます。最近では、ホテルの名所としての知名度が上がり、季節になると町内外から多くの鑑賞者が来訪。地道な努力が実り、本当に嬉しく思います。会員



福智みどりの会 **矢島 正幸** 会長

の高齢化が進んでいます。できる範囲で、福智町の活性化のために活動が続けたいと思います。

**受け継いだ魅力を生かし
町を活性化する挑戦続く**

かつて町の基幹産業だった炭鉱が閉山した後、右肩下がりに活気を失っていく町を再び盛り上げるため、先人から受け継いできた上野地区の美しい自然や景観、地域の歴史などの魅力を守り、そして生かす

かつて町の基幹産業だった炭鉱が閉山した後、右肩下がりに活気を失っていく町を再び盛り上げるため、先人から受け継いできた上野地区の美しい自然や景観、地域の歴史などの魅力を守り、そして生かす

【特集】

眩 げん 光 こう

福智の光を集めて

炭鉱という基幹産業を失った福智町。閉山後、衰退するこの町を活性化し、先人から受け継いだ誇りを未来へつなげようと上野地区を中心とした観光のまちづくりが進められています。今回の特集では、町のため、挑戦を続ける皆さんの取組や想い、その努力を生かすため、新たに動き出した町の挑戦をご紹介します。

**人口約2千の小さな地域
握る地域活性化の可能性**

町の中心部である福智町役場・金田本庁舎から車で約10分。福智山の麓を目指して、北へ5kmほど進むと辿り着く、上野地区――

上 野焼協同組合に加盟する9窯元が新作を発表する「秋の窯開き」が10月28日から3日間、開催されました。JAL協賛の抽選会、「多肉植物×上野焼」の販売会とワークショップなども同時開催。町内外から約5,500人の陶芸ファンが訪れ、逸品探しや特別企画を通して上野焼の魅力を体感していました。



News ▶「上野焼 秋の窯開き2023」を開催

世界へと広く発信し続けなければいけない」と力強く拳を握りしめます。上野焼窯元と、町や県、関係機関により、今日まで受け継がれてきた伝統と誇りを、創意工夫で次の世代へとつなぐ取り組みが続けられる上野焼。今後も陶の里の挑戦から目が離せません。



福 岡の有名グルメ情報誌「ソワニエ+」と、県内飲食店の協力の元、上野焼パンフレット「上野焼 おいしいうつわ」を制作しました。12月から順次、県内飲食店に配布し、上野焼をPRする予定。町内では、福智町役場本庁舎や上野焼陶芸館などに展示しますので、お手に取ってご覧ください。

Information ▶「上野焼×料理」でPRパンフレット制作



×小倉城

上野ゆかりの地とタッグを組んで魅力発信

細川、小笠原の歴代小倉藩主の御用窯として親しまれた上野焼にゆかりのある小倉城（北九州市）とコラボレーションし、「上野焼作陶体験と小倉城庭園での大茶会」、「上野焼と小倉城／歴史をつなぐバスツアー」、「上野焼展示会 流1602～2023」を実現しました。初開催の大茶会とバスツアーには、計73人が参加。小倉城とのつながりを生かして、上野焼を大勢のかたにPRしました。

温故知新の挑戦を続けて 伝統と誇りを次の世代へ

新たな上野焼のファンと販路、後継者を創出するため、上野焼協同組合は、今年度から町や県、関係機関と連携した4つの新たな取り組みを開始。フランスに出品した上野焼の売れ行きは上々、小倉城と連携した大茶会とバスツアーには73人が参加、多肉植物×上野焼のセットは121個が完売、「上野焼後継者インターンシップ」には5人の若者が参加するなど、早くも良い手応えが現れ始めています。

新たな取り組みへ確かな手応えを感じながらも、「伝統という大義名分や、一時的な手応えに甘んじてはダメ」と真剣なまなざしを向ける高鶴理事長。「今後、受け継いだものに創造と時代のニーズを加えた上野焼を生み出し、その魅力を日本全国、

志ある若者が陶の里で伝統工芸インターン

上野焼でも深刻化する後継者不足。伝統の継ぎ手確保に向け、今年度から上野焼協同組合と県、ニッポン手仕事図鑑、町が連携し、「上野焼後継者インターンシップ」に取り組んでいる。全国から6人の応募があり、11月9日に行われたリモート面談で5人に選抜。上野焼窯元・渡窯など福智町内で11月28日から3日間、産地と希望者をマッチングする現地見学や相談会などが実施されました。



×後継者



×多肉植物



魅力の掛け合わせが生んだ新たな顧客

コロナ禍で「おうち時間」や癒やしを求める時間が増えたことをきっかけに、現在、10代から30代までの若い女性を中心として高い関心を集める多肉植物。新たなファン層の獲得のため、今年度から地元花店の協力を得て、多肉植物と上野焼の鉢を合わせて販売する取組を始めました。秋の窯開きで行った販売会では、121セットが完売。魅力と魅力の相乗効果による新規顧客の獲得に希望を示しました。



×フランス

海を越えた異国で広げる販路開拓への道

日本から西に約9,850km離れたフランスで行われた「第11回伝統と先端と～日本の地方の底力～」に上野焼75点を出品。地方でのディジョン展は10月18日から22日まで、メインとなるパリ展は11月14日から25日まで開かれ、通算17日間、上野焼の展示と販売が行われました。展示が目的の焼き物を除き、マグカップなどの売れ行きは上々。海外へと販路を広げる新たな可能性を見いだしました。

上野焼421年目の現状 陶の里に立ちこめる暗雲

豊前小倉細川藩の初代藩主・細川忠興公が招致した李朝陶工・尊階により1602年に開窯され、今年で421年目を迎えた上野焼。昭和58年に国の伝統的工芸品に指定され、最盛期を迎えた上野焼の里には20件を超える窯元が軒を連ね、多数の陶芸ファンでにぎわいを見せていました。しかし、時代の潮流が大量生産・大量消費、使い捨てへとシフトし、売上や来場者が減少。「現在では上野焼窯元が減少し、その中でも正式な後継者がいる窯元は数件のみ」。このままでは伝統の灯が消える可能性がある。

上野焼協同組合の高鶴享一理事長は、現状に危機感を募らせます。

420年以上の歴史をもつ、福智町・上野地区の特産品である国指定伝統的工芸品「上野焼」。大量生産・大量消費、使い捨ての時代となった現在では、その存続に警鐘が鳴らされています。町の誇りを未来へとつなぐ挑戦について、上野焼協同組合の高鶴享一理事長にお話を伺いました。

伝統と誇りを未来へ



ご案内する町の観光コースを、今年度リニューアル。「ふくち案内人」のガイドと一緒に福智の歴史や自然の魅力に触れてみませんか。ユーモア溢れるご案内でおもてなし致します！料金や申込方法などの詳細は、福智町観光HP「ふくち旅」で公開中。



- 新コース1**▶ 足利尊氏伝説「興国寺」(約1.5h)
- 新コース2**▶ 福智山麓「上野散策」(約2.5h)
- 新コース3**▶ 国指定伝統的工芸品「上野焼窯元見学」(約2.5h)
- 新コース4**▶ 金田駅から「歴史散歩」(約2.5h)

Information ▶ 来てみん！ふくちの魅力、私たちがご案内します！

コロナ禍乗り越え再出発 既存コースをリニューアル

30年ぶりに福岡で開催された「KOGEI EXPO」の産地ツアーで上野地区をガイドするなど、本格的な活動がこれからという時に、新型コロナウイルスの影響で活動自粛を余儀なくされた「ふくち案内人」。コロナ禍中にも希望を捨てず、活動再開に向けて、各自、情報収集やガイドの練習を続けました——

新型コロナウイルスがいわゆる「感染症法」上の5類に引き下げられ、日常に戻ってきた今年。「ふくち案内人」は、ついに5月から活動を再開させま

す。再出発の第一歩として、設立当初から変更・見直しされていた観光コースをリニューアル。各スポットを実際に歩いて検討するなど、コロナ禍にためていた熱量を傾けて、上野地区を中心とした新たな4つの観光コースを作成しました。

先月25日にガイドを受けた竹田奈穂子さん(飯塚市)は、「福智町にこんな魅力があるんだと、ガイドの皆さんの話に引き込まれました。機会があれば、また案内をお願いしたい」と高く評価。「お客さんの喜ぶ姿が、私たちの原動力。お声もただけ、うれしい」と「ふくち案内人」の皆さんは頬を緩めました。

町の魅力伝える営業マン ふくち案内人の挑戦続く

先月26日には、西鉄旅行のバスツアー「小倉藩窯上野焼を訪ねて」でガイドを務めるなど、現在も精力的な活動を続ける「ふくち案内人」ですが、「若い世代のガイドがいない」という課題もあると口をそろえます。「私たちの取組を意味あるものにするためには、活動を継いでくれる若い人の力が不可欠。少しでも参加してみたいと思ってもらうために、今活動する私たちが楽しむ姿を見せたいかとね」と笑みをこぼします。

今後の目標については「町を訪れた外国人のお客さんを案内できるようなこと」と意気込むガイドの皆さん。「2030年の訪日外国人6千万人」という政府の目標により、今後高まると思えるインバウンドにもしっかりと対応していきたいと期待を胸に膨らませています。

「福智町は、歴史やロマンが詰まった町。他にない「上野焼」という強みもある。埋もれてしまうのはもったいない。平均年齢はオーバ60の私たちやけど、福智町の営業マンとして、多くのお客さんに町の魅力を伝え続けていきたいね」。

Request ▶ 福智町の魅力を伝える新たな仲間を募集中

「ふくち案内人」では、今年度で新設した福智山専門の「登山ボランティアガイド」と、従来の「ボランティアガイド」を同時募集中。郷土愛をここで生かしてみませんか。

求める人物像▶

人と接することが好きなた / 健脚自慢の人 / 福智町の文化や歴史を学び、それを多くの伝えたい人

応募・お問合せ先▶ 観光ボランティア協会事務局(担当: 松本)

☎ 0947-22-7766 / 平日8時半～17時15分



↑ 設立当初、ガイドのプロ・藤原ちず子さんの研修で、ガイドの基本とおもてなしの心を学んだ案内人たち。



「福智の良さを一番知っているのは、行政ではなく、この町に暮らす私たち。やけん、自分たちの言葉で町の良さを伝えていきたいんよ」。

そんな想いで平成24年に設立した福智町観光ボランティアガイド協会「ふくち案内人」。住民自らがガイドとして町の魅力を紹介することで、来町者と町のファンを増やし、地域に人を呼び込みたいという住民主体の活動は今年で11周年を迎えます。

当初は、昭和の町で知られる豊後高田市の観光ガイドを務める藤原ちず子さんにガイドのいろはを教わりながら、有志8人で取組を開始。現在では、会員数も14人に増え、依頼を受けた際のご案内や月1回の定例会はもちろん、案内する情報の調査や共有を目的とした自主勉強会を開くなど、積極的な活動へと取組の輪を広げてきました。

ようこそ、我が

ふるさと 故郷へ

福智町を訪れた皆さまに町の観光名所をご案内する観光ボランティアガイド協会「ふくち案内人の会」故郷の魅力は、私たちが伝えたい——熱い志を胸に、日々活動しています。平成24年の設立から11年目の今年、「ふくち案内人」のこれまでと想い、今後の目標をご紹介します。



1 案内後の反省や次回のガイドに向けた打合せなど、活発な意見交換が行われる毎月一回の定例会 2 現在では、「ふくち案内人」のガイド技術を学ぶため、他県のガイド団体も来訪。写真は、宮崎県湯前町の視察受入時のもの 3 最後までおもてなしの心を忘れず、手を振り見送る案内人たち



Interview ▼

町外に暮らす私だからこそ
できるお手伝いで地域活性化を！

復 旧ボランティアがきっかけでレモン畑を
お手伝いするようになりました。平野さん
と深く関わる中で、町のためレモン栽培に挑戦
する思いや人柄、地域の人や町の魅力を知り、
継続的に関わっていききたいと感じたため、現在



「あがのレモン」メンバー
村上 由紀 さん

も「あがのレモン」の活
動に参加しています。
今後も畑の運営はもち
ろん、町外のメンバー
として、レモン畑を通じ
て町に人を呼び込んだり、PRするお手伝い
ができればと思います。

の木がなぎ倒され、
平野さんはひどく落
ち込みます。日高さ
んは、平野さんを励
ますため、県内でボ
ランティアに取り組
む若者に声をかけ、
9月23日から3日
間で復旧作業を実
施。延15人の協力
ですべての木を復
活させることに成功
します。平野さんは

【4】1日6時間×3日の作業に汗を流し、台風で倒
れたレモンの木約100本を復活させることに成功
【5】作業後には毎回、「獺師小家」で親睦会を開催。
平野さんが若者の人生相談に乗ったり、地域活性化
のため議論を展開するなどお互いの絆を深化



【1】平野さん（前列左から4番目）のレ
モン畑を支えてきた県内の若者ボラ
ンティアたちと作業後に一枚【2】平
野さんと県内の若者ボランティアを
つなげた、地域おこし協力隊の日高
将博さんと妻の杏実さん【3】今年9月
23日の作業中、「若い人にパワーを
もらってるから、レモン栽培を続けら
れている」と笑顔をこぼした平野さん

無農薬レモンで 町を再び元気に！ 77歳の挑戦



上野の地で50年以上、町の移り変わりを見守ってきた平野
八十八さん。「寂しくなった町を活性化しよう」と県内の若者ボラ
ンティアと一緒に、2haの畑に千本以上の無農薬レモンを栽培して
います。苦労と困難の日々を乗り越え、迎えた今月。平野さんと
若者の想いが実りとなって収穫を迎えようとしています――



「町を再び盛り上げたい」
無農薬レモン栽培を決意

「臭いや肉質が独特」といったネ
ガティブな意見を覆すほど絶品の
ジビエ料理が堪能できる、上野地区
の隠れた名店「獺師小家」。山の獺
師歴57年を誇る平野八十八さんが
お店を切り盛りしています。兄が
移住していた縁で、出身地の熊本県
水上村から福智町へ移り住み50年
以上もの間、福智の地で町の移り
変わりを静かに見てきた平野さん。
「炭鉱の時代は活気があつたんや
けど、閉山後は主な産業もなく、人
が減り、町が寂しくなっていた」と
と声のトーンを落とします。

「何十年と暮らしてきた思い入れ
ある福智町を再び活気づけるため
にはどうすればいいのか……」

一人考えていた時、「瀬戸内レモ
ン」で知られる、香川県出身の知人
から無農薬レモンの話を聞きます。
観光の町おこしや高齢者雇用、コ
ミュニティーの創出と、広い意味で
町を活気づけられる可能性を見い
だし、「これなら、いける」と直感し
た平野さん。福智町を再び盛り上げ
るため、一念発起して無農薬レモン
栽培に挑戦する決意を固めます。

「見返りを求めず、必死に作業して
くれた若者の姿に胸を打たれ、再び
前を向き直すことができたんよ」と
有難そうに当時を振り返りました。

出会いと絆が紡いだ奇跡
形と想いを福智の未来へ

その後も定期的に畑作業を手伝
うなど、交流を深めていった平野さ
んとボランティアの若者。その絆が
結実し、今年11月1日に「あがのレ
モン」を設立。今月には、初の収穫
祭が開かれます。記念すべき日を
前に、平野さんは「嬉しさもあるが、
今まで支えてくれたすべての人への
感謝が大きいね」と頬を緩めます。

収穫した福智産の無農薬レモン
は「オーガニックスーパー」などに卸
したり、レモン塩やドライフルーツ
などに加工し、町内で直販する予
定」と声を弾ませる平野さん。「将
来的には、レモンの木にオーナー制
度を導入し、町外のかたが定期的
に町を訪れるような仕組みを作り
たい」と膨らむ夢に目を輝かせます。
「年齢は、もう77歳。もしも、自分
の人生が終わりを迎えても、レモン
畑は形として、想いとして次の世代
へ引き継がれ、この町で生きていく。
それまでは健康と信念を大切に、
一生懸命「今」を生きていきたい」
平野さんは力強く、そして優しく、
豊かな未来へと視線を向けました。

Information ▼ 「あがのレモン収穫祭」を初開催！

レモンの収穫体験やレモン使用
のワークショップ、地元飲食店
の出店など、地域の魅力が詰まった収
穫祭を開催します。参加には、チケット
の事前購入が必要。詳しくは「あがの
レモン」の公式HPをご確認ください。

日時 ▶ **12月9日**
10:30～15:30

場所 ▶ 福智町上野 3109-17

→ チケットの購入方法や詳しいイ
ベント内容、雨天の対応や駐車場
の案内などは、こちらからご確認を。



地

域に暮らす皆さんが、郷土への愛と誇りをもって今まで磨き上げてきた個々の観光コンテンツ。1つひとつは、素材の力に加え、先人や今を生きる地域の皆さんの尽力で唯一無二の光を放つものになっています。しかし、それらの連動性が乏しいため、今以上の結果に結びついていないのが現状です。

福智町では現在、個々の魅力と携わってきた人の想いを無駄にしないため、菌車のように各観光資源を連動させ、地区全体の魅力向上を目指す「上野ブランド化」を進めています。地区内で観光から宿泊まで完結できる「滞在型観光」の実現を目指すこの取組。今後、県や国の補助金を活用し、地域にない観光要素をもつ企業の誘致や、町有地の有効活用などに取り組んでいく予定です。

人口減少や高齢化、地域経済の衰退が急激に進む福智町。解決するにはまちづくりで関係人口や交流人口を、移住で定住人口を増やす他すべはありません。地域に点在する光を集め、まばゆい光「眩光」を生み出そうとする住民の皆さまと福智町の挑戦は、どんな未来の姿を照らし出すのでしょうか――

福智町の取組をご紹介します

Tourism Measures 1 ▼ クラフトサケ醸造所 開設予定者の誘致



単なる特産品としてだけでなく、上野焼・農業振興など、多方面での相乗効果が期待できる「クラフトサケ醸造所」の誘致に向けて開設予定者を募集中。

Tourism Measures 2 ▼ 町有地の 有効活用を検討



旧天郷荘跡地をキャンプ場として活用できる可能性を調べるため、民間力を導入してコンサルティング調査を実施中。結果を基に検討を進める予定。

Tourism Measures 3 ▼ 弱点強化のため 飲食店を誘致



観光の要である飲食店が少なくという課題をもつ上野地区。地元食材や上野焼のPR効果が期待できる飲食店の誘致に向けた取り組みを強化する予定。

Tourism Measures 4 ▼ 福智山登山の 案内本・地図を刷新



新たな情報や登山コースを盛り込んだ、福智山トレッキングガイドブックと地図をリニューアル。福智町役場や「ふくちのち」などの公共施設で配布中。

受け継ぎ 磨き上げた 光を集めて

これまでフィーチャーした皆さんや今回ご紹介しきれなかったかたなど地域活性化のため活動するすべての人の取り組みと想いを無駄にせず、生かすため福智町は新たな観光施策に乗り出しています。予想よりも急激に進む、歯止めのない人口減少や高齢化、地域経済の衰退など福智町に落ちる黒い影――晴らす光を手繰り寄せて町を明るく暖かく照らしたい。地域全体を巻き込んだ新たなまちづくりが始まっています。

Interview ▶ お世話になった福智町のため、観光のまちづくりの後押しを！

平

成15年4月から2年間、
県庁より福智町(旧金田町)へ派遣され、町の皆さんにお世話になりながら、地域の魅力を直に学んで帰りました。今ではその経験も生かしながら、県の観光政策を担当しています。現在、福岡県の観光客数は、コロナ禍前の水準に回復しつつありますが、その多くは福岡市などの都市部に集中しています。福智町のように、県内には魅力的な観光資源をもつ市町村が多数あります。そのため県では、そうした観光資源をより多くの方々に知っていただき、県内を周遊していただくことが大切だと考えているため、県内の観光資源の魅力向上やプロモーション、観光客の受入環境の充実などに取り組んでいます。福智町では現在、町を挙げた「上野ブランド化」に励んでいると聞きました。お世話になった町に恩返しできるよう、県庁職員として町の挑戦を後押しできればと思います。



福岡県商工部
観光局観光政策課
課長補佐
真鍋 孝博

【特集】眩光 福智の光を集めて――〈終〉

福智町の豊かさを育む母なる福智山。標高901mを誇る山頂には、登ることを諦めなかった者だけを見えることを許される、遮るものがない360度大パノラの絶景が眼下に広がります。